

教科に関する調査の設問別分析結果

福山 地域 問題

平成 21 年度全国学力・学習状況調査 中学校国語

【出題の趣旨】

古文と現代語訳とを対応させて、内容をとりえることができるかどうかをみる。

【学習指導要領の内容・領域】

- Ｃ 読むこと（第一学年）
 - ア 文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解すること。《語句の意味や用法》

次は、兼好法師が書いた「徒然草」の【冒頭部分】とその【現代語訳】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【冒頭部分】

つれづれなるままに、日暮らし、硯にむかひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

【現代語訳】

何もすることがないままに、一日中、硯に向かつて、心に次々と浮かんで消えていくとりとめのないことを、ただなんとなく書き付けていると、不思議と妙な感じがしてくるよ。

傍線部「よしなしごと」の意味を【現代語訳】の中から抜き出さない。

	正答率
本校	70.8%
広島県	65.6%
全国	65.0%

解答類型	1	2	無解答
本校の割合 (%)	70.8	26.1	3.1

この問題を解くために必要な力

- 1 文章の意味のまとまりを読みとる力
- 2 語句の意味を理解する力
- 3 表現の仕方に注意して読み、内容について理解する力

誤答分析

解答（誤答）類型 2 について（26.1%）

- ・「よしなしごと（古語）」を「消えていくとりとめのないこと（現代語訳）」（13%）、
「浮かんで消えていく」（3%）、「いくとりとめのないこと」（2%）、など、古文と現代文とを正確に対応させることができず、語句の意味のまとまりを捉え違いをしている。
- ・「良いこと悪いこと」（2%）、「よくないこと」（2%）、「あらゆること」（1%）など、問題の意味を捉え違い、自分で現代語訳をしている。
- ・「とりとめな~~い~~ことを（＝「の」が抜けている）」（2%）、「とりとめもないことを（「の」を「も」に変えている。）」（1%）など、単純な写し間違いをしている。

指導改善のポイント

福山 地域 問題 平成 21 年度全国学力・学習状況調査 中学校国語

【単元名】 古典を楽しむ 「夏草」 (第3学年)

調査結果からみる課題

【課題となる力】

- ・ 文章の意味のまとまりをつかむ力
- ・ 語句の意味を理解する力
- ・ 表現の仕方に注意して読み、内容について理解する力

【指導上の課題】

- ・ 辞書を引いて意味や用法を確かめる習慣を、確実に身につける指導が十分ではなかった。
- ・ 文や語句の文脈上の意味を正しく捉えさせ、情景や心情を豊かに想像し、読み取らせる指導が十分ではなかった。

指導改善のポイント

「作者の思いを読み取って書く。」という言語活動を通して、目的を持って古文を読む。



【指導の工夫】

- ・ 古文を読ませ、作者の思いがわかる根拠となる語句や表現を文章中から見つけ出させ、それをもとにして「なぜ旅に出ようと思ったのか。」を文章に書かせる。



古文を読ませ、作者の思いが分かる根拠となる語句や表現を文章中から見つけ出させ、それをもとにして「なぜ旅に出ようと思ったのか。」を文章に書かせる。

キーワード探し 芭蕉の思いが分かる根拠となる語句や表現を、5つ以上古文の中から見つけ出す。

キーワードを整理する。

芭蕉のあこがれ・願いとは(冒頭の人生観)
あこがれている人
あこがれの(行きたい)場所
現在の心情
準備・行動

作者の思いを文章に書く

整理したキーワードをもとにして、「なぜ旅に出よう」と思ったのか、芭蕉の思いを考え、百字以上にまとめ、文章に書く。

中学校第 3 学年国語科学習指導案

単元名：古典を楽しむ 「夏草」

日時： 11月2日（月） 6校時
学級： 第3学年3組 男子18人 女子18人 計 36人

単元について

「おくのほそ道」は、近世の代表的な古典文学作品であり、芭蕉が行く先々で美しい自然や人情に触れ、敬愛する古人を偲び、歴史に思いをはせ、多くの名句を創り、それらを織り込んだ旅の体験や見聞を記した俳諧紀行文である。主題は万物が流れゆくところに人生があり、人間は旅の中で生きていくという人生観である。三学年の生徒にとってはやや難解な語句や表現もあるが、訳文や脚注を手がかりにして、作者の考え方や人生観を読み深めることで自分たちの人生観をもたせ、格調高い古文の表現を味わわせることができる作品である。

この作品を読む際、作者が体験した事実や状況を、まず地の文(古文)から正確にとらえることが、作者の思いや感動などについて考えていく上で有効である。特に、古文独特の表現や、対句表現や漢語的な表現を意識して読ませることにより、学習指導要領のC読むこと(1)ウ「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。」を指導していくことができる。また、古文の意味を解釈しながら、読み取った情景や作者の心情を表現する言葉を手がかり(根拠)にして、作者の心情を想像させ、生徒自身の言葉を組み立てて書かせることで、さらにC読むこと(1)オ「目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること。」に示されている「読み」をより深めることができる。と考える。

また、この作品は簡潔で格調高い漢文調の文体で記され、音読すると流れるような音律を感じることができる作品であり、繰り返し音読させることによって、言語事項(3)(1)ア「音声の働きや仕組みについて関心をもち、理解を深めること」ができ、古典作品の優れた表現を味わわせることができる。

調査結果からみる課題

(1) 問題の概要

兼好法師が書いた「徒然草」の冒頭文とその現代語訳とを対応させ、「よしなしごと(古文)」の意味を現代語訳の中から抜き出させ、言葉のつながりや意味を理解しているかを問う問題である。

(2) 出題の趣旨

この問題は、古文と現代語訳とを対応させて内容をとらえることができるかどうかをみる問題である。これは中学校学習指導要領の第一学年の「読むこと」(1)アに「文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解すること。《語句の意味や用法》」に関連している。

(3) 誤答の分析

本校の解答類型は次の通りである。

解 答 類 型		割 合
1	とりとめのないこと	70.8
2	上記以外の解答しているもの	26.1
9	無 解 答	3.1

本校の正答率(解答類型1)は70.8%である。誤答では解答類型2が26.1%、無解答が3.1%である。

誤答の原因については、まず、語彙力の問題、特に文脈に即した語句の意味の捉え違いをしている点が多くが挙げられる。例えば、「よしなしごと(古語)」を「消えていくとりとめのないこと(現代語訳)」と捉えた誤答が13%と最多であり、「浮かんでは消えていく」(3%)、「いくとりとめのないこと」(2%)、など、「うつりゆく(古語)」も含めて、古文と現代文とを正確に対応させ、言葉のつながりから連想して、文脈に即して古語の意味のまとまりを読み捉えることができていない。

また、問題の意味を捉え違いし、「良いこと悪いこと」(2%)、「よくないこと」(2%)、「あらゆること」(1%)など、自分で勝手に現代語訳をしている。さらに「とりとめないことを(「の」が抜けている)」(2%)、「とりとめもないことを(「の」を「も」に変えている。)(1%)」など、正しく押さえているのに、単純に写し間違いをしているものもある。

このように古文と現代文とを正しく照応させ、語句の意味のまとまりとして理解することが不十分であることが課題である。

(4) 指導上の課題

辞書を引いて意味や用法を確かめる習慣を、確実に身につけさせる指導が十分ではなかった。

文や語句の文脈上の意味を正しく捉えさせ、情景や心情を読みとらせる指導が十分ではなかった。

指導改善のポイント

(1) 指導内容・指導方法について

「『作者の思いを読み取って書く。』という言語活動を通して、目的をもって古文を読む。」ことを目標とし、次の点について、本単元では指導の改善・工夫をしていく。

古文を読ませ、作者の思いがわかる根拠となる語句や表現を文章中から見つけ出させ、それをもとにして「なぜ旅に出ようと思ったのか。」を文章に書かせる。

この学年の課題である、文脈上の意味を正しく捉え、情景や心情を読み取る力が弱いことから、作者の心情を古文に用いられている語句や表現から具体的に読み取らせ、自分の言葉で書かせ、グループ内、さらには全体で発表させるという活動を仕組む。

(1) **キーワードを探させる。** まず、旅に対する作者の思いがわかる根拠となる語句や表現をワークシートを活用しながら5つ以上古文の中から見つけ出させ、作者の心情を想起させる。

(2) **キーワードを整理させる。**
ワークシートを活用して次の5つの項目に整理することで、作者の心情をより明確に読み捉えさせる。
作者のあこがれ・願いとは(冒頭の人生観) どのようなものか。
あこがれている人
あこがれの(行きたい)場所
現在の心情
準備・行動

(3) **作者の思いを文章に書かせる**
(2)で整理したキーワードをもとにして、作者は「なぜ旅に出よう」と思ったのか、作者の思いを考え、自分の言葉で百字以上にまとめて文章に書かせることで、語句をより理解したり、思いを想像したりしながら、読み取る力をつけさせる。さらにグループや全体で発表させ交流させることにより、冒頭文全体に流れている作者の「旅への思い=人生観」をより深く読みとらせる。

(2) 3教科共通のとりくみについて

- ・根拠を基にして考えを述べる力をつける。そのためには国語科では本文や既習内容を根拠として意見を述べさせる指導を行う。
- ・また、指導者が話しすぎないようにして、生徒の学習活動を取り入れ、生徒主体で考えさせる。

単元の目標

ア 関心・意欲・態度	イ 話す・聞く	ウ 書く	エ 読む	オ 言語事項
古文を音読させることにより，独特の音律に親しむ。作者や作品に関心をもち，調べ，発表する。			古文から根拠となる語句や表現を見つけ，作者の心情を読み取って文章に書く。作品に取り上げられた俳句の中から，語句や表現に着目して好きな句を読み味わう。	仮名遣いに注意して音読し，古文の特徴やリズム，語調をとらえ，味わう。 辞書・資料を使い，目的に沿って語句を調べ，意味や事象を理解する。

(全4時間)


次	目標・学習内容(時数)	評 価					評価規準	評価方法
		関	話	書	読	言		
—	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">ねらい 仮名遣いに注意して音読し，古文の特徴やリズム，語調をとらえ，味わう。</div> 1．～中二までの古典作品の既習内容について想起，発表させる。 2．全文(古文のみ)を朗読する。 3．「出典」「作者」(p133)について資料集を参考に調べ，「おくのほそ道」と芭蕉について基礎的な知識をもつ。 4．班で[1]の古文(p126, 127)を音読して，古文のリズムに親しむ。 5．[1]の部分の古語や難語句を調べる。 <div style="text-align: right;">(1)</div>						ア 作者や作品に関心をもち，調べ，発表している。 ア 古文を音読することにより，独特の音律に親しんでいる。 オ 仮名遣いに注意して音読し，古文の特徴やリズム，語調をとらえ，味わっている。 オ 資料集を使い目的に沿って語句を調べ，意味を理解している。	行動観察 行動観察 行動観察 ワークシート

<p>二 【本時】</p>	<p>ねらい古文から，根拠となる語句や表現を見つけ，作者の心情を読み取って文章に書く。</p> <p>1．・[1]の古文(p126,127)の作者の思いが分かる根拠となる語句や表現を，5つ以上古文の中から見つけ出す。 ・5つの項目に整理し，作者の心情を読み取る。 ・「草の戸も…」の句を鑑賞する。 ・作者の思いを考え，百字以上で文章に書く。</p> <p>2．班内で交流し，1つ選ぶ。</p> <p>3．全体で発表し合う。</p> <p>(1)</p>					<p>エ 古文から，根拠となる語句や表現を見つけ，作者の心情を読み取って文章に書いている。</p>	<p>ワークシート</p>
<p>三</p>	<p>ねらい 古文を古語や歴史事項を調べながら現代語訳する。</p> <p>1．班で[2]の古文(p130,131)を音読して，古文のリズムに親しむ。</p> <p>2．背景となる歴史事項を確認する。</p> <p>3．[2]の部分の古語や難語句を調べ，現代語に訳す。</p> <p>(1)</p>					<p>オ 仮名遣いに注意して音読し，古文の特徴やリズム，語調をとらえ，味わっている。</p> <p>オ 辞書・資料を使い，目的に沿って語句を調べ，意味や事象を理解している。</p>	<p>行動観察 ワークシート</p>
<p>四</p>	<p>ねらい古文から，根拠となる語句や表現を見つけ，作者の心情を読み取って文章に書く。</p> <p>1．・[2]の古文(p130,131)では作者の何を見て，何を感じたか，思いがわかる根拠となる語句や表現を，3つ以上古文の中から見つけ出す。 ・前半と後半の作者の心情を整理し，読み取る。 ・本文中にある三句を鑑賞する。 ・作者の思いを考え，百字以上で文章に書く。</p> <p>2．班内で交流し，1つ選ぶ。</p> <p>3．全体で発表し合う。</p> <p>4．p128,129の「『おくのほそ道』俳句地図」読み，作者の思いを考え，好きな俳句を選んで暗唱する。</p> <p>(1)</p>					<p>エ 古文から，根拠となる語句や表現を見つけ，作者の心情を読み取って文章に書いている。</p> <p>エ 作品に取り上げられた俳句の中から，語句や表現に着目して好きな句を読み味わっている。</p>	<p>ワークシート 行動観察</p>

本時の学習

古文から、根拠となる語句や表現を見つけ、作者の心情を読み取って文章に書く。
 学習指導要領 C読むこと(1)オ

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
1 前時の復習をする。(古文の音読)			
前時に読んだ古文(p126,127)を音読する。(斉読)	・仮名遣いに注意して、表現の特徴やリズム、語調をとらえて音読させる。	音読により、作品の優れた表現を味わう力。	
2 本時の目標を確認し、作者の思いを読み取り、文章に書く。			
本時の目標を確認する。			
根拠となる語句や表現を見つけ、作者の心情を読み取って文章に書く。			
T) 根拠となる語句や表現5つ以上を見つけ、整理し、それをもとにして芭蕉が「なぜ旅に出ようと思ったのか」を読み取って、百字以上で文章に書きましょう。			
	古文を読ませ、作者の思いが分かる根拠となる語句や表現を文章中から見つけ出させ、それをもとにして「なぜ旅に出ようと思ったのか。」を文章に書かせる。		
<p>[1]の古文(p126,127)の中から作者の思いがわかる根拠となる語句や表現を、5つ以上を見つけ、ワークシートに書く。</p> <p>書いたことを発表し、5つの項目に整理する。</p> <p>「草の戸も・・・」の句を鑑賞する。 1学期に学習した5W1Hで鑑賞文を書いて発表する。</p>	<p style="text-align: center;">しっかり教える</p> <p style="text-align: center;">書く手順</p> <p>(1) キーワードを探させる。 「なぜ旅に出ようと思ったのか」作者の思いがわかる<u>根拠となる語句や表現</u>を5つ以上古文から見つけ、ワークシートに書く。</p> <p>(2) キーワードを整理させる。 5つの項目に整理する。 作者のあこがれ・願いとは(冒頭の人生観) どのようなものか。 あこがれている人 あこがれの(行きたい)場所 現在の心情 準備・行動</p> <p>・隣同士で書けているか確認し合う。 ・前時に調べた難語句を確認する。</p>	<p>必要な情報を収集し自分の表現に役立てる力。</p> <p>エ 古文から、根拠となる語句や表現を見つけ、作者の心情を読み取って文章に書いている。</p>	ワークシート

<p>芭蕉の「旅への思い」を考え、百字以上で文章に書く。</p>	<p>じっくり考える</p> <p>(3) 作者の思いを書く。 (2) をもとにして、百字以上で芭蕉が「なぜ旅へ出ようと思ったのか」を考えて、文章に書く。</p>	<p>情報をもとにして自分の考えを文章に表現する力。</p>
<p>3 書いた文章を交流し合う。</p>		
<p>T) 班内で文章を交流し合い、心情がしっかりと書かれている文章を1つ選び、発表してください。</p>		
<p>班内で交流し、1つ選ぶ。</p> <p>全体で発表し合う。</p> <p>感想を発表し合う。</p>	<p>全員が発表できるように班の中で協力させる。</p> <p>はっきり表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 声の大きさ、姿勢、言葉遣いに注意して発表させる。 聞く姿勢も指導する。 自分の文章と比較させて、共感や違う見方、感じ方を発表させる。 	<p>目的に応じて、必要な情報を整理して話す力。</p> <p>工 根拠をもとにして読み取った作者の心情を表現している。</p> <p>行動観察</p>
<p>4 古文を音読し、読み味わう。(まとめ)</p>		
<p>T) 古文の意味や作者の心情を思い浮かべながら、表現やリズムに注意して、はっきりと音読しましょう。</p>		
<p>古文の語調の美しさやリズムを味わいながら全員で音読する。(斉読)</p> <p>本時のまとめと次時の内容を確認する。([2]の古文について現代語訳することを予告する。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次時の学習内容を伝える。 	

評価問題等による検証

検証の方法

1. 語彙力(語彙の意味を理解する力)の検証 ワークシートの記述による。
2. 「文脈上の意味を理解し、情景や心情を読みとる力」の検証
ワークシート(作文)の記述による。
3. 表現・語句・意味を問う問題、および文章を読み取って書かせる問題を定期テストで出題し1, 2の力について検証する。